

平成 20 年 7 月 19 日

於：シムックス

中齋塾 北関東フォーラム  
平成 20 年 第 7 回講話

では恒例の質問を致します。

「昨日一日、嘘をつかなかった方は手を挙げて下さい。」

(・・・沢山手が挙がる)

嘘についての定義はなかなか難しいですね。人さまの為に・世の中の為にという嘘もございますから、それは良い嘘だと思っています。お聞きするのは悪い嘘です。自分だけ儲けよう・自分だけ良い思いをしようというものは、悪い嘘とお考え下さい。

「ここ一週間、嘘をつかなかった方は手を挙げて下さい。」

(・・・沢山手が挙がる)

皆さん凄いですね。

夜眠る時に嘘をつかなかったかどうかを考えて、今日は失敗したというのがあると、ずっと棘が刺さったような記憶が残ります。ですから何も棘が刺さったような記憶がなければ、「一ヶ月間嘘をつかなかったか」とお聞きしても、大丈夫だと思います。

では、「昨晚眠る時に、今日は一日よかったなと満足して寝た方はおられますか。」

何でもよいから良かったと感じることを思い出して満足して眠ると、ずっと気持ちよく眠れます。人間は余程の恨み怨みがない限り、死ぬ時には穏やかな良い顔になりますね。人間には死んだ後、耳の後ろの方から何か特殊な液が出て、穏やかな顔になるような仕組みがあるそうです。

もう一つお聞きします。

「今朝、爽やかにすっきり起きられた方はどれくらいいますか。」

朝、目覚めた時に自分自身をすっきりさせる何か、文言でも結構ですので、考えると良いと思います。今日ご紹介する『日本人の見識』を書かれた木内孝さんは、朝起きると腕立て伏せを 500 回するそうです。そうすると心拍数が一気に上がり、慣れてくると数分で下がるそうです。これを一日 4 回、合計すると 2000 回しているそうです。

では今日のテーマに入ります。為政第二 通 20 です。

「子曰く、吾十有五にして学に志す。三十にして立つ。四十にして惑わず。五十にして天命を知る。六十にして耳順う。七十にして心の欲する所に従えども矩を踰えず。」

個人の人生を考えてみましょう。一生の間で肝心なものは何かと考えると、非常に単純ですが、出会いだと思えます。誰に出会ってどういう影響を受けるか。どういう本を読んでどんな影響を受けるか。煎じ詰めるとそれしかありません。人に出会うというのは、現実には生きている人だけでなく、亡くなった方との出会いも当然あります。ですから誰に出会うか、どのような本に出会うかそれだけです。

出会った時にはっと思う、その感動によって人生が変わることもあります。一生を振り返って、<あの人に会って、こういう事に目覚めた><こういう事に気が付いてから、人生が少しずつ変わってきた><この本を読んで、人生の歩みが変わってきた>・・・といった事が必ずあると思えます。そういうものを大切にしていって、何か素晴らしい人物に会った時にピピッと来るかどうか。来たら、しめたものです。その時どう思うか、その動き方によって変わって来ます。

論語に次のような言葉がございます。

「子曰く、与に言うべくして、之と**言**わざれば、人を**失**う。与に言うべからずして、**之**と**言**えば、**言**を**失**う。知者は人を**失**わず。亦**言**を**失**わず。」

与に言うべくして、之と言わざれば、人を失う・・・この人物は凄い、この人と話したいと思ったら訪ねてみる事です。この人の話を聞きたいと思ったら、自分で積極的に出かけて行って自分から縁を繋がなければ、もうその人との縁は起き得ません。人生は一回です。チャンスも一回限りです。<この人は！>と思って見込んだら、すぐに出かけて行って話をする。そういう行動に移らない場合は、まだ本気ではないのだと思えます。

与に言うべからずして、之と言え、言を失う・・・この人は面白くない、自分と波長が合わないと思いながら話しをするのは、時間の無駄だからやめなさい。続ければ続けるほど自分の心の中が汚れてくる、とお考え下さい。

一生の中ではっと思う人・はっと思う本にどれだけ出会えるか、そして、出会ったらどれだけ深く掘り下げられるか。それが肝心です。

皆さんは自分の人生で、この本を読んで変わったとか、この人に会って変わったという人はおられますか？

これからそういう人や本に会いたいと思う方はおられますか？

・・・手を挙げた方は、必ず会います。思いが強ければ強いほど、必ず会うことができます。

柳生家の家訓にもあります。

小才は、縁に出会って縁に気づかず・・・素晴らしい人物に出会ったとしても、通り過ぎて分からない。

中才は、縁に気づきて縁を活かせず・・・求め方が強ければ、はっと分かります。

大才は、袖触れ合う縁をも活かす・・・先程ぱっと手を挙げた方は、必ず会います。

そう思って人生を過されたほうがいいし、必ずどこかで会うことができます。

個人の一生で考えたら、次に自分が所属している組織（会社でもよいし自治体でも結構です）の一生で考えます。

それぞれの会社や組織は、生れるべくして生れたわけです。そうすると企業の一生の中で、どこかで光り輝く時がある。光り輝く時というのは、その企業としての一生の間でやらねばならない使命・これをやる為にこの企業は生れたというものが、自然と出てくると思うのです。

その組織が社会の役に立っているかどうか・・・。今、形骸化してどうにもならない企業が沢山あります。飛騨牛問題の渦中の社長しかり、船場吉兆しかりです。一つの企業が100年なり200年間ずっと続くと、そこに胡坐をかいて、自分達の常識の中に浸かってしまい社会の常識が分からなくなってしまうと感じます。

それは自分自身に置き換えてもいいし、又、置き換えて考えなければいけないと思います。

今日本の国を動かしている自由民主党という組織を考えたら、もう限界でどうにもならない所にまで来ていると感じています。

今回、洞爺湖サミットが開かれました。

皆さんにお聞きしますが、「洞爺湖サミットが開催された方が良かったと思う方はどれくらいおられますか？」

私は洞爺湖サミットについては是々非々で、良い所もあったし悪い所もあったと思います。何もテロが起きなかった事や、あれだけの首脳が集って、一つの事について一所懸命討議したという事は素晴らしいと思います。

ただ、福田さんの顔が全然見えなかった。外国の新聞には、福田さんの顔が全然載っていませんでした。何故でしょうか。これは別に福田さんが悪いのではなくて、政治としての仕組みが限界に来ているのではないかと感じました。

翻って、それぞれの組織・仕組み、自分自身が関与している組織体はどのようなのか、と考える必要があると思います。

個人の一生、組織の一生で考えたら、その次に国家としての一生も考えるべきだと思います。

日本の国が誕生して現在に至るまで、今後どれくらい日本の国が続くのだろうか。民族という考え方でもよろしいでしょう。国家としての流れを見るには、安岡干支学で 60 年周期で考えるのが良かろうと思います。

更に、国家の次は文明の一生を考えると良いでしょう。文明法則史学で、800 年の周期で西洋文明が発展し、衰退し、200 年の転換期を経て次の東洋文明に移行していく。文明としての周期を考えると良い。

もう少し目を広げれば、人類はどのようなか……。氷河期が来て人類が減んでいく。これを繰り返しているわけです。

そして最後は地球の一生でしょうか……。

本日のテーマの論語を、深く掘り下げて考えました。こうする事によって世界が深く掘り下げられるし、広がっていきます。

では、心に残る言葉に参ります。

本日ご紹介する本は木内孝さんの『日本人の見識』です。

先程、木内さんが一日に 2000 回腕立て伏せをするとご紹介しました。何故そうするようになったのか、少しお話をします。木内さんは外国で飲んだお酒が元で、肝炎を患ったそうです。病院に入院して治療をしましたが、このまま入院していても、これ以上はよくなると医者にも見放されて退院し、その後自分の身体の為に腕立て伏せを始め、それが習慣になったのだそうです。

皆さんも何か自分にとって良いと思うことを見つけて、続ける習慣を身に付けましょう。これは凄く大きな事です。

又、木内さんが 25 歳の時、カナダのロッキー山脈を車で運転中に、崖から転落事故を起こして九死に一生を得ました。その時に父親から「ナニヲシテモイガ、シンデハイカン」という電報が届いて、それがその後の一生の指針になったそうです。

人間が生きていく上で必要だなと思う台詞、良いなと思った台詞は、他の方にもお伝え

すれば良いと思います。

又、この本の中の、「気づく」か、「気づかぬ」かが勝負の分かれ目だという表現が心に残りました。EUを例に挙げて、EUは日本では「欧州連合」と訳しているけれども、自分で出かけて行って感じることは、連合ではなく同盟だ。「欧州同盟」であるという解釈をしたと書いてあります。

先程休憩中に館野先生の体操をしましたが、どうですか？ 気持ち良いと感じた方が多いのではないのでしょうか。

これが「足るを知る」です。身体を使って<気持ちよかったな>と感じたら、間違いなく「足るを知る」世界に入っています。ところが一步外に出ると忘れてしまいます。「足るを知る」を思い出したいと思ったら、一番身に付きやすいのは、先程したような運動です。頭の中だけで覚えた「足るを知る」では、目の前に何か良い餌がぶら下がったら、ついフラフラときます。しかし身体を使って覚えた「足るを知る」は、身体に染み込んでいきますから、咄嗟の場合に訳に立ちます。

「足るを知る」を勉強するというのは、自分が<ああ良かった。気持ちが良かった>と感じたら、それを回りにおすそ分けしようという単純明快なもので良いのです。自分自身の仕事を通じて、相手に何かを差し上げる。その繰り返しだと思います。人さまの為に何かをして、相手が<何かをしてくれたな>と思うと、自分自身の心の中に何かホッとしたものが生まれます。「足るを知る」とは、お互いが気持ちよくなることです。それほど難しい事ではありません。

ものを教育するのも同じで、相手に説明をし、分かってくれた時が自分自身が本当に覚えて血肉になる時です。相手が分かってくれない時は、自分自身も分からないまま説明しているからだと思います。相手が納得してくれた時は、自分も満足感があります。

自分の仕事の中で、自分も足るを知り、相手も足るを知る。お互いに良かったと言い合えるようになるには、機（タイミング）が大事です。又、良かったなという余韻が残るとよろしい。夜寝る時に<今日は良かったな>という余韻が残っているようであれば、「足るを知る」瞬間があったという事です。そういう余韻が残っていくように眠れると、朝も爽やかに起きられます。そういう生活習慣を身に付けて下されば、長生きできるのではないかと思います。

本日は以上で終了とさせて戴きます。有難うございました。